

第41号議案

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例

上記の議案を提出する。

令和4年8月17日

提出者 文京区教育委員会

教育長 加藤 裕一

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例（平成十二年三月文京区条例第二十九号）の一部を次のように改正する。

本則中「再任用短時間勤務職員」を「定年前再任用短時間勤務職員」に改める。

第三条第三項中「第二十八条の五第一項又は第二十八条の六第二項」を「第二十二条の四第一項」に改める。

付 則

（施行期日）

1 この条例は、令和五年四月一日から施行する。

（経過措置）

2 暫定再任用短時間勤務職員（地方公務員法の一部を改正する法律（令和三年法律第六十三号）附則第六条第一項若しくは第二項又は第七条第一項若しくは第三項の規定により採用された職員をいう。）については、この条例による改正後の幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例第三条第三項に規定する定年前再任用短時間勤務職員とみなして、同条例の規定を適用する。

幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例（平成十二年条例第二十九号）新旧対照表

改正後（案）	現行
<p>○幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例 平成十二年三月二十三日 条例第二十九号 改正 平成一三年三月二一日条例第三三号 （略） 令和四年●月●日条例第●号 （略）</p> <p>（一週間の正規の勤務時間）</p> <p>第三条 （略） （略）</p> <p>3 地方公務員法第二十二條の四第一項に規定する短時間勤務の職を占める者（以下「定年前提任用短時間勤務職員」という。）の正規の勤務時間は、第一項の規定にかかわらず、休憩時間を除き、一週間について十五時間三十分から三十一時間までの範囲内で、教育委員会が定める。</p> <p>4 教育委員会は、職務の性質により前三項の規定により難いときは、休憩時間を除き、文京区教育委員会規則（以下「教育委員会規則」という。）で定める期間につき一週間当たり三十八時間四十五分（育児短時間勤務職員等にあつては当該育児短時間勤務等の内容に従った時</p>	<p>○幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例 平成十二年三月二十三日 条例第二十九号 改正 平成一三年三月二一日条例第三三号 （略） 新設 （略）</p> <p>（一週間の正規の勤務時間）</p> <p>第三条 （略） （略）</p> <p>3 地方公務員法第二十八條の五第一項又は第二十八條の六第二項に規定する短時間勤務の職を占める者（以下「再任用短時間勤務職員」という。）の正規の勤務時間は、第一項の規定にかかわらず、休憩時間を除き、一週間について十五時間三十分から三十一時間までの範囲内で、教育委員会が定める。</p> <p>4 教育委員会は、職務の性質により前三項の規定により難いときは、休憩時間を除き、文京区教育委員会規則（以下「教育委員会規則」という。）で定める期間につき一週間当たり三十八時間四十五分（育児短時間勤務職員等にあつては当該育児短時間勤務等の内容に従った時</p>

間、**定年前再任用短時間勤務職員**にあつては前項の規定により定める時間)とする正規の勤務時間を、特別区人事委員会(以下「人事委員会」という。)の承認を得て、別に定めることができる。

(正規の勤務時間の割振り)

第四条 教育委員会は、暦日を単位として月曜日から金曜日までの五日間において、一日につき七時間四十五分の正規の勤務時間を割り振るものとする。ただし、育児短時間勤務職員等については、月曜日から金曜日までの日(次条第一項ただし書の規定により定められた週休日を除く。以下同じ。)において、当該育児短時間勤務等の内容に従い一日につき七時間四十五分を超えない範囲内で正規の勤務時間を割り振るものとし、**定年前再任用短時間勤務職員**については、月曜日から金曜日までの日において、一日につき七時間四十五分を超えない範囲内で正規の勤務時間を割り振るものとする。

(略)

(週休日)

第五条 日曜日及び土曜日は、週休日(正規の勤務時間を割り振らない日をいう。以下同じ。)とする。ただし、教育委員会は、育児短時間勤務職員等については、必要に応じ、当該育児短時間勤務等の内容に従いこれらの日に加えて月曜日から金曜日までの五日間において週休日を設けるものとし、**定年前再任用短時間勤務職員**については、日曜日及び土曜日に加えて月曜日から金曜日までの五日間において週休日を設けることができる。

間、**再任用短時間勤務職員**にあつては前項の規定により定める時間)とする正規の勤務時間を、特別区人事委員会(以下「人事委員会」という。)の承認を得て、別に定めることができる。

(正規の勤務時間の割振り)

第四条 教育委員会は、暦日を単位として月曜日から金曜日までの五日間において、一日につき七時間四十五分の正規の勤務時間を割り振るものとする。ただし、育児短時間勤務職員等については、月曜日から金曜日までの日(次条第一項ただし書の規定により定められた週休日を除く。以下同じ。)において、当該育児短時間勤務等の内容に従い一日につき七時間四十五分を超えない範囲内で正規の勤務時間を割り振るものとし、**再任用短時間勤務職員**については、月曜日から金曜日までの日において、一日につき七時間四十五分を超えない範囲内で正規の勤務時間を割り振るものとする。

(略)

(週休日)

第五条 日曜日及び土曜日は、週休日(正規の勤務時間を割り振らない日をいう。以下同じ。)とする。ただし、教育委員会は、育児短時間勤務職員等については、必要に応じ、当該育児短時間勤務等の内容に従いこれらの日に加えて月曜日から金曜日までの五日間において週休日を設けるものとし、**再任用短時間勤務職員**については、日曜日及び土曜日に加えて月曜日から金曜日までの五日間において週休日を設けることができる。

2 教育委員会は、職務の性質により特別の勤務形態によって勤務する必要のある職員については、前項の規定にかかわらず、四週間ごとの期間につき八日の週休日（育児短時間勤務職員等にあつては八日以上で当該育児短時間勤務等の内容に従った週休日、**定年前再任用短時間勤務職員**にあつては八日以上での週休日）を設けるものとする。ただし、職務の特殊性又は当該幼稚園の特殊の必要（育児短時間勤務職員等にあつては、当該育児短時間勤務等の内容）により、これにより難い場合において、人事委員会の承認を得て、四週を超えない期間につき一週間当たり一日以上の割合で週休日（育児短時間勤務職員等にあつては、四週を超えない期間につき一週間当たり一日以上の割合で当該育児短時間勤務等の内容に従った週休日）を設けるときは、この限りでない。

（週休日の振替等）

第六条 （略）

2 半日勤務時間の割振り変更の規定は、育児短時間勤務職員等及び**定年前再任用短時間勤務職員**（第四条第一項の規定により、一日につき七時間四十五分の正規の勤務時間が割り振られている場合を除く。）については、適用しない。

（略）

（年次有給休暇）

第十五条 年次有給休暇は、一会計年度ごとの休暇とし、その日数は、一会計年度において、二十日（育児短時間勤務職員等及び**定年前再任**

2 教育委員会は、職務の性質により特別の勤務形態によって勤務する必要のある職員については、前項の規定にかかわらず、四週間ごとの期間につき八日の週休日（育児短時間勤務職員等にあつては八日以上で当該育児短時間勤務等の内容に従った週休日、**再任用短時間勤務職員**にあつては八日以上での週休日）を設けるものとする。ただし、職務の特殊性又は当該幼稚園の特殊の必要（育児短時間勤務職員等にあつては、当該育児短時間勤務等の内容）により、これにより難い場合において、人事委員会の承認を得て、四週を超えない期間につき一週間当たり一日以上の割合で週休日（育児短時間勤務職員等にあつては、四週を超えない期間につき一週間当たり一日以上の割合で当該育児短時間勤務等の内容に従った週休日）を設けるときは、この限りでない。

（週休日の振替等）

第六条 （略）

2 半日勤務時間の割振り変更の規定は、育児短時間勤務職員等及び**再任用短時間勤務職員**（第四条第一項の規定により、一日につき七時間四十五分の正規の勤務時間が割り振られている場合を除く。）については、適用しない。

（略）

（年次有給休暇）

第十五条 年次有給休暇は、一会計年度ごとの休暇とし、その日数は、一会計年度において、二十日（育児短時間勤務職員等及び**再任用短時**

用短時間勤務職員にあっては、その者の勤務時間等を考慮し二十日を超えない範囲内で教育委員会規則で定める日数)とする。

(略)

付 則 (令和四年●月●日条例第●号)

(施行期日)

1 この条例は、令和五年四月一日から施行する。

(経過措置)

2 暫定再任用短時間勤務職員(地方公務員法の一部を改正する法律(令和三年法律第六十三号)附則第六条第一項若しくは第二項又は第七条第一項若しくは第三項の規定により採用された職員をいう。)については、この条例による改正後の幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例第三条第三項に規定する定年前再任用短時間勤務職員とみなして、同条例の規定を適用する。

間勤務職員にあっては、その者の勤務時間等を考慮し二十日を超えない範囲内で教育委員会規則で定める日数)とする。

(略)

新設

新設

新設

新設

新設